

「無限の樹形図」という言葉を聞いたことがありますか。私はこの言葉を、ある医療がテーマの漫画で知りました。その漫画は小児外科医の物語です。無限の樹形図というのは小児医療において、1人の子どもを救うとその子孫、すなわち樹形図までも救うことができる、ということの意味しているそうです。そしてさらに、若手の医師を育成すると、もしくは救った子どもが医師になると、その医師たちが救う子供たちの樹形図も救ったことになる、ということだそうです。

私は斜視という病気を持っています。斜視というのは目の病気です。普通の人の目は両目とも同じ方向を向いています。でも斜視の人は筋肉などに問題があり両目で同じ方向を見ることができません。片目がずれてしまうのです。もしかすると、なんだそれだけか、と思う人もいるかもしれませんが、斜視は放っておくと最悪の場合失明することもある病気です。片目がずれているために、ずれている方の目の情報を邪魔だと判断した脳がその情報をシャットアウトしてしまい、使わなくなってしまうためです。また、片目のみで生活している状態なので、立体的に物を見ることができません。私の場合外斜視といって目が外側にずれる状態で、今でも時々右目がずれてしまいます。私も治療を受けるまでは右目が機能しておらず、立体感覚がなかったため頻繁に転んでいました。

そんな私を救ってくださった女医の先生がいます。私の両親は私を日本で1番斜視の手術実績の多い病院へ連れて行ってくださいました。その病院で私の手術を担当して下さったのがその先生です。子供の斜視の手術の経験がとても豊富な先生で、手術がとても上手です。私は年長の時と中学1年生の時の2回、その先生の手術を受けました。年長の時の手術は全身麻酔で受けたのですが、中1の時の手術は局所麻酔で受けました。手術が凄く上手な先生と書きましたが、それだけでなく子供と話すのがとても上手な先生でもあります。実は中1の時の局所麻酔での手術はとても緊張していたのですが、手術中も

「今朝福井から来たんでしょ、何時に家出たの？」

「中学校楽しい？」

などとずっと話しかけてくださって、手術が終わるころには笑いながら話ができるほど緊張が解けていました。先生のお蔭で、私は今日に何の支障もなく過ごせています。

先生は私の樹形図を救ってくださいました。私は今、先生のような医師になりたいと考えています。先生に感謝すると共に、先生が私の樹形図を救ってくださったようにたくさんの樹形図を救えるような医師になりたいです。

でも私が思うに、誰かの樹形図を救えるのは医師だけではないと思うのです。私達にも誰かの樹形図を救えることがあるのではないのでしょうか。ほんの些細なきっかけで人生が変わることはあります。極端な例ですが、例えば放送委員が校内放送で何気なくかけた曲に感銘を受けた生徒が、将来の夢を変えて世界的なミュージシャンになるかもしれません。そのミュージシャンの曲の歌詞に心動かされ、誰かが自殺を思いとどまることだってあるかもしれないのです。でも逆に、ふざけて言っただけの言葉が思いもよらぬ誰かを深く傷つけて、その人を自殺させてしまうこともあり得ます。私達のほんの些細な行動で、誰かの樹形図を救うことができます。その一方で、私達のそのほんの些細な行動で、誰かの樹形図を壊してしまうことだってあるのです。

私達の何気ない言動で壊されていく樹形図があると思うととても胸が苦しい思いがします。でも前述の通り、樹形図を救えるきっかけも身近にたくさん存在します。これから高校、大学と進学し、社会へ出ていく中で、私達はたくさんの人と接することになります。誰かの樹形図を守り、そして救える人がもっと増えてほしいです。勿論自分もその人達の一員であれるよう努めたいです。

最後に、今回この「無限の樹形図」という言葉をあなたが知ったことが今後あなたが誰かの樹形図を救うという「無限の樹形図」の出発点となることを願っています。